

世界 LNG 動向#117 2025 年 9 月

橋本裕*

はじめに

日米両政府は 2025 年 9 月 4 日、7 月 22 日発表の両国間の枠組合意の実施に関する共同声明、覚書を締結した。これにはエネルギーを含む各部門での日本から米国への投資、日本による LNG を含む米国産エネルギー追加購入が含まれる。

米国で 2025 年に入ってから 9 月までに FIDs(最終投資決定) に至ったプロジェクトにより、年間 5400 万トン分の生産キャパシティが追加されることとなる。Rio Grande LNG 第 4 系列プロジェクトについて、20 年間の長期引き取りのコミットメントを確保した NextDecade 社は、9 月上旬、FID を行った。さらに第 5 系列に関して 2025 年第 4 四半期の FID に向け手配を進めている。Cameron LNG プロジェクトを操業し、Port Arthur フェーズ 1 建設中の Sempra 社は、同月下旬、Port Arthur LNG フェーズ 2 の FID を発表した。

米アラスカ州 Alaska LNG プロジェクト商談が前進している。9 月中旬、JERA との LOI(関心表明) を発表、他社向けの締結分を含め LNG 引き取り容量の半分以上に関して、初期的なコマーシャル上の合意を確保したとしている。フェーズ 1 アラスカ州内供給用パイプラインに関する 2025 年内 FID 目標に続き、LNG 輸出部分に関する 2026 年内 FID 目標を明示した。さらに韓国 POSCO とはパイプライン鋼材・LNG 売買の可能性を含めての戦略的パートナーシップを発表した。

カナダ政府は 8 月末、メジャー・プロジェクト・オフィス (MPO) 設置、規制承認プロセスを合理化・加速化、プロジェクトのファイナンス組成・調整支援する方針を示した。地方当局と協力して、環境評価の「ワンプロジェクト・ワンレビュー」実現を目指す。同時期にニューファンドランド・ラブラドル州での LNG 輸出構想が浮上した。

ロシア Gazprom・CNPC(中国石油天然気) 間で 9 月初旬、「中国向けの Power of Siberia 2 ガスパイプライン・モンゴル経由 Soyuz-Vostok 輸送パイプライン建設に関する法的拘束力を持つ覚書」を含む戦略的協力に関わる文書が締結された。制裁対象の LNG 輸送船舶が、ロシアの制裁対象の設備からの LNG カーゴを積載し、中国南部の LNG 輸入基地でこれらのカーゴを荷卸した。

[アジア太平洋]

北東アジア 4 市場(日本、韓国、中国、台湾)は、2025 年 1-8 月期 1.31 億トンの LNG を輸入した。前年同期(1.38 億トン)比 5.2%減となった。

株式会社 JERA は、2025 年 9 月 30 日、姉崎火力発電所 5・6 号機、袖ヶ浦火力発電所 1

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

号機、知多火力発電所 5 号機および広野火力発電所 2 号機（計 325.4 万 kW）を廃止したことを発表した。

ポーランド ORLEN 社は、2025 年 9 月 30 日、自社初の日本向け LNG 引き渡しを完了したことを発表した。大阪ガス向けに供給され、ORLEN 船団最新の船舶で輸送された。

株式会社商船三井は、2025 年 9 月 8 日、ウインドチャレンジャー（硬翼帆式風力推進装置）を 4 基搭載した新船型のメムブレ型 LNG 船について、認証機関であるロイド船級協会（LR）から、基本設計承認（Approval in Principle: AiP）を取得したことを発表した。さらに旗国とも安全性の評価を行い、HD 現代重工業株式会社（HHI）と共同開発した新船型 LNG 船は、マーシャルアイランドから、また、サムスン重工業株式会社（SHI）と共同開発した新船型 LNG 船は、リベリアからも AiP を取得したとのこと。

川崎重工業株式会社は、2025 年 9 月 29 日、中国遠洋海運集团有限公司と共同運営している大連中远海运川崎船舶工程有限公司（DACKS、中国大連市）にて、MOLENERGIA PTE. LTD.（エムオーエル エナージャ プライベート リミテッド）向け VLCC「ENERGIA VIKING（エナージャ バイキング）」を引き渡したことを発表した。なお、本船は川崎重工グループとして初の LNG 燃料 VLCC となる。

川崎重工業株式会社は、2025 年 9 月 30 日、水素を 30%まで混焼可能な大型ガスエンジンを販売開始したことを発表した。自社神戸工場にて、2024 年 10 月より都市ガスに水素を最大 30%（体積比）混合した燃料に対して適用可能なガスエンジン発電設備（8MW 級）として、水素供給やメンテナンス性など運用面での検証を進め、2025 年 9 月に実証試験を完了した。

韓国南部発電会社（Kospo = 한국남부발전）は、2025 年 9 月 5 日、KOGAS（韓国ガス公社）と天然ガス購入契約を締結したことを発表した。Kospo は 2027 年からの 10 年間で 440 万トンを受け入れる。KOGAS が締結している全 LNG 輸入契約の価格を平均して全発電企業に等しく供給する既存の「平均価格方式」と異なり、「個別価格方式」は、特定の輸入契約を個別発電企業に結び付け、当該契約の価格、条件で直接供給する。

TotalEnergies、KOGAS（韓国ガス公社）は、2025 年 9 月 9 日、2027 年末から 10 年間、年間 100 万トンの LNG の韓国での引き渡しについて HoA（基本合意）締結を発表した。国際入札を経て TotalEnergies に KOGAS より指名されたもので、2028 年以降 TotalEnergies により KOGAS に供給される LNG 量が年間 300 万トンに増加することとなる。今回の追加数量は、米国での生産や引き取りを中心に TotalEnergies グローバルポートフォリオから供給されることとなる。

ENGIE 社は、2025 年 9 月 5 日、韓国中部発電会社 Korea Midland Power Co., Ltd.（KOMIPO）との間で長期 LNG SPA（売買契約）を締結したことを発表した。

Lloyd's Register（LR）は、2025 年 9 月 11 日、韓国 現代重工業（HHI）に、前方の居住区・風力推進方式（WAPS）を織り込んだ新型大型 LPG 輸送船舶（VLGC）の設計に基本承認（AiP）を認めたことを発表した。

中国の LNG 輸入量は、2025 年 1-8 月期 4177 万トンと、前年同期 5025 万トンに比して 16.8%減となった。パイプラインガス輸入は 9.0%増加して 4014 万トンだった。同国の 1-8 月の天然ガス生産量は、173.7 bcm (1737 億 m³) と、前年同期比 6.1%増となった。

新奥天然气股份有限公司 (ENN Natural Gas Co., Ltd.) は、2025 年 8 月 27 日、新奥环球贸易私人有限公司 (ENN Global Trading Pte Ltd) が Chevron 社と 2 本目の長期 LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。Chevron は 2028 年から 10 年間、毎年数カーゴを供給することとなる。カーゴは Chevron のグローバルポートフォリオより、原油価格に基づき価格設定されることとなる。

Wison New Energies (惠生清洁能源) は、2025 年 9 月 11 日、自社と Siemens Energy (SE) が戦略的 MOU (覚書) を締結したことを発表した。SE の SGT-750 ガスタービンパッケージ・モーターコンプレッサーパッケージを Wison の FLNG (浮体 FLNG 生産)、浮体生産・貯蔵・積み出し (FPSO) プロジェクトに組み込む最適構成を共同開発する。

Wärtsilä 社は、2025 年 9 月 30 日、香港本拠の OPearl LNG Ship Management 社 (东升液化天然气船舶管理有限公司) と、14 隻の LNG 輸送船舶を対象とした 10 年間のライフサイクル契約を締結したことを発表した。この 14 隻は 2025 年第 3 四半期から 2027 年第 2 四半期に引き渡し予定となっている。OPearl LNG Ship Management は、2023 年 12 月、China Merchant LNG (中国液化天然气运输 (控股) 有限公司)、CNOOC (中国海洋石油集团有限公司)、日本郵船間の船舶管理部門として設立された。

ベトナム PetroVietnam Gas (PV Gas) 社は、2025 年 9 月 20 日、年間 6 カーゴ、40 万トン を 2027 年から 2031 年まで DES (持ち届け ex-ship) 条件で、供給者側が FOB (本船渡し) オプションを提案できる条件で Thị Vải 基地に調達する入札文書を発行した。応札期限は 10 月 1 日、入札通知日を 8 月 25 日としている。

ベトナム Vingroup は、2025 年 9 月 26 日、Tân Trào (タンチャオ) 工業団地と Hải Phòng LNG 火力発電所を着工した。

シンガポール Singapore GasCo 社は、2025 年 9 月 5 日、エネルギー市場監督庁 EMA よりガス輸入者ライセンスを認められたことを発表した。このライセンスにより、パイプライン天然ガス、LNG とともにシンガポールに集約して輸入することができることとなる。

MET Group は、2025 年 9 月 10 日、Keppel 社のインフラストラクチャー部門、ライセンスを受けている LNG 輸入企業 1 社とともに、年間 50 万トンの長期 LNG 引き渡しに関して、HoA (基本合意) を締結したことを発表した。Keppel は MET の 10%株主である。

ABB は、2025 年 9 月 16 日、韓国ハンファオーシャン (Hanwha Ocean) がシンガポール最初の浮体 LNG 基地向けの電力・推進システム全体を供給する契約を ABB に発注したことを発表した。同浮体基地は、ABB の遠隔コントロール、遠隔診断システム、状況監視のソリューション、強化型電力保護システム (EPPS) も備えることとなる。当該 FSRU は 2027 年に船主の商船三井 (MOL) に引き渡され、Singapore LNG 社に長期傭船されることとなる。貯蔵容量 LNG 200,000 m³ を有する当該 FSRU は、MOL 管理下で 2030 年にジュロン

港に繋留され、ガス網に接続されることとなる。Singapore LNG は浮体設備で LNG 年間 500 万トン进行处理する契約を締結している。

シンガポール Synergy Marine 社は、2025 年 9 月 10 日、Karpowership とのパートナーシップにより、125,000 m³ LNG 輸送船舶 1 隻の FSRU (浮体貯蔵・気化設備) "KARADENIZ LNGT POWERSHIP AMERICAS" に改造が完了したことを発表した。シンガポールの Seatrrium 社の Admiralty ヤードにて引き渡された。

Cool Company Ltd. (CoolCo)、EPS Ventures 社 (EPS) は、2025 年 9 月 29 日、CoolCo 取締役会が、EPS 側が CoolCo 発行済株式を全て取得する取引を承認し CoolCo はその契約を締結したことを発表した。この取引は、EPS 完全子会社の CoolCo との合併の形式をとる。合併は 2025 年第 4 四半期または 2026 年第 1 四半期に完了見込み。

タイ Bank of Ayudhya Public (Krungsri) 銀行は、2025 年 9 月 26 日、PTT LNG 社、Electricity Generating Authority of Thailand (EGAT) 間の合併事業でラヨーン県 Ban Nong Fab の Map Ta Phut 2 (LMPT-2) LNG 受入基地プロジェクトオペレーターとなる PE LNG 社を支援する長期融資契約を締結したことを発表した。

豪 Santos 社は、2025 年 9 月 18 日、XRG コンソーシアム (Abu Dhabi National Oil Company (ADNOC) 子会社 XRG を筆頭として Abu Dhabi Development Holding Company, Carlyle を含む) が Santos 取締役会に対して、当初提案 (2025 年 6 月 16 日付) を撤回し、提案していた取引 (Santos 発行済み株式の 100%買い取り) を進めない決定を通知したことを発表した。2025 年 9 月 15 日、Santos 取締役会は、XRG コンソーシアムに、Santos は XRG コンソーシアムから受容可能な条件で拘束力ある提案を 2025 年 9 月 19 日以前に受領すれば、提示価格 5.626 米ドルで SIA (実施協定) を締結する見通しであると連絡していた。

豪 Santos 社は、2025 年 9 月 11 日、Orica との間で、その豪州東部市場での諸製造設備に向けたより長期間での Narrabri ガスプロジェクトからの国内ガス供給可能性について、非拘束の MOU (覚書) を締結したことを発表した。両社は Santos による Orica への最大年間 15 PJ (27.6 万トン) Narrabri から最大 10 年間のガス可能性を交渉することとなる。両社は、Santos の第三者向けカーボンマネジメントビジネスを通じての脱炭素化推進機会を検討する。Narrabri ガス供給は、Santos が同ガスプロジェクトの FID (最終投資決定) を行うこと、拘束力あるガス供給契約の交渉・締結、双方が社内・規制承認を確保することが条件となる。Santos は遡って 2020 年、Narrabri ガス 100%を国内市場向けに自主的にコミットした。

豪 Santos 社は、2025 年 9 月 19 日、ナラバリ郡評議会との間で、同郡西部外殻地域の Northern NSW Inland Port 商工地区内の事業者向けに Narrabri ガスプロジェクトから天然ガスを供給する非拘束の MOU (覚書) を締結したことを発表した。Santos は同評議会向けに年間最大 3.2 PJ (58,800 トン) を最長 10 年間供給する。Wilga Park Power Station 支線パイプライン容量、Santos による同プロジェクトの FID (最終投資決定) が条件とな

る。ENGIE、鉱業・インフラストラクチャーソリューション企業 Orica との同様の引き取り手配に続くものである。

豪州政府（気候変動・エネルギー・環境・水道省）は、2025 年 9 月 12 日、North West Shelf プロジェクト延長に関して最終承認を下した。同省は、ウェスタンオーストラリアのダンピア群島の一部を形成する世界遺産に登録された Murujuga ロックアートに対する影響を回避・緩和するため 48 件の厳格な条件を課している。また、セーフガードメカニズムの下、2050 年までにネットゼロ排出に到達しなければならない。豪 Woodside Energy 社は、本件承認を歓迎した。

西オーストラリア州環境保護局（EPA）は、2025 年 9 月 17 日、Browse CCS プロジェクトの評価審査を行うべきか否か、する場合にはどのレベルが適切か判断するため 1 週間のコンサルテーションを開始した。

豪 Santos 社は、2025 年 9 月 22 日、BW Opal FPSO（浮体生産・貯蔵・積み出し船舶）が生産開始に向け最初のガスを受け入れたことを発表した。BW Opal は同 16 日に稼働開始準備完了（RFSU）、海底生産井からのフローが開始されていた。Barossa 合弁事業パートナーは PRISM Energy Australia（旧 SKE&S）、JERA Australia を含む。ノーザンテリトリ環境保護当局は、同 19 日からの環境保護ライセンスを更新した。これにより Darwin LNG 設備へのガス供給開始、スタートアップの道が開く。

豪 Woodside Energy 社、日本水素エネルギー株式会社（JSE）、関西電力株式会社は、2025 年 9 月 25 日、日豪間における液化水素サプライチェーン構築に向けた協業に関する覚書（MOU）を締結したことを発表した。Woodside が西オーストラリア州で推進中の H2Perth プロジェクトにて生産された液化水素を、液化水素運搬船を用いて日本の受入基地まで輸送する液化水素サプライチェーンの構築に向けた協議を進める予定。H2Perth プロジェクトでは、同州パースにある Rockingham、Kwinana 工業地帯およびクイナナ工業地帯にて、天然ガス由来の液化水素を製造したうえで、出荷することを計画している。製造過程で発生する CO₂ を回収・貯留、および必要に応じてカーボンクレジットを使用することで、本プロジェクトにて製造される液化水素は操業開始時から Scope1・2 とともにネットゼロを達成したクリーン水素として利用可能となることを目指す。

[北米]

2025 年 9 月 4 日、米国・日本間の枠組合意の実施に関する共同声明・覚書（MOU）が締結された。MOU によると、日本が、半導体、医薬品、金属、重要鉱物、造船、エネルギー（パイプラインを含む）および人工知能/量子コンピューティングを含むがこれらに限定されない様々な分野で、5500 億米ドルを米国に投資すること（資本コミットメント）が両国の最善の利益であると認識している。共同声明によると、日本は液化天然ガス（LNG）を含む米国のエネルギーについて、当該 LNG に関する新たなアラスカでのオフテイク契約を追求しつつ、年間計 70 億米ドル規模の安定的かつ長期的な追加購入を実施するとしている。

Sempra 社は、2025 年 9 月 23 日、Sempra Infrastructure Partners における 45%株式を、KKR 子会社・Canada Pension Plan Investment Board (CPP Investments) 連合に売却することに合意したことを発表した。取引は 2026 年第 2-3 四半期に完了見込み。KKR 主導のコンソーシアムが Sempra Infrastructure Partners における出資持分 65%の多数株主となり、Sempra は 25%を維持、Abu Dhabi Investment Authority (ADIA) が 10%所有を継続する。Sempra はまた、Sempra Infrastructure Partners が Port Arthur LNG フェーズ 2 開発・建設・操業を推進する FID (最終投資決定) に達したことを発表した。

この新フェーズは、公称容量年間 1300 万トン、液化設備 2 系列、LNG 貯蔵タンク 1 基、随伴関連諸設備を含むこととなる。フェーズ 2 の追加のプロジェクト資本的支出は 120 億米ドル、共通諸設備 20 億米ドル程度と試算され、コマーシャル稼働開始は第 3 系列 2030 年、第 4 系列 2031 年と見込まれている。

フェーズ 2 向けの資金は、Blackstone Credit & Insurance による出資、KKR、Apollo 傘下の複数のファンド、Goldman Sachs Alternatives 傘下の Private Credit による出資に支えられる。これらの投資家が 70 億米ドル分で 49.9%のマイノリティー出資分を確保した。Sempra Infrastructure Partners は同プロジェクトで 50.1%マジョリティー持分を維持している。

100%の出資分資金調達に加え、Sempra Infrastructure Partners は Bechtel Energy 社に委託契約をしており、同社にはプロジェクト推進の公式通知がなされた。Bechtel はフェーズ 1 からフェーズ 2 へと継続して関与していくこととなる。

フェーズ 2 は、中核パートナーとして ConocoPhillips、および EQT、JERA、Sempra Infrastructure Partners との間で、20 年間の SPAs (売買契約) で長期の引き取りコミットメントを確保している。

Golden Pass LNG Terminal 社は、DOE (米エネルギー省) の 2025 年 9 月 22 日付指令により、コミッショニング期間中に設備クールダウン用に用いるカーゴの再輸出に関して承認を受けた。テキサス州の同輸出プロジェクトは、2025 年 10 月 1 日からの 2 年間に最大 50 bcf の LNG を輸出することができる。Golden Pass は 2024 年初、同年 3 月 30 日から 2026 年 3 月 29 日までに最大 50 bcf の LNG を輸入する許可を DOE から受けた。

Venture Global Plaquemines LNG 社は、2025 年 9 月 19 日、許可済全設備を公式稼働開始させる期限を、2026 年 9 月 30 日から 2027 年 12 月 31 日まで延長する許可を FERC (連邦エネルギー規制委員会) に申請した。

NextDecade 社は、2025 年 9 月 3 日、20 年間の LNG SPA (売買契約) を EQT 社と、Rio Grande LNG 第 5 系列からの引き取りに関して締結したことを発表した。EQT は年間 150 万トンの LNG を 20 年間、FOB (本船渡し) 条件・ヘンリーハブ連動価格で、NextDecade が第 5 系列に関して FID (最終投資決定) を行うことを条件として、購入することとなる。NextDecade は Bechtel Energy 社との第 5 系列に関する一括請負 EPC (エンジニアリング・

調達・建設) 契約下の価格有効期間を 2025 年 11 月 15 日まで延長した。

NextDecade 社は、2025 年 9 月 8 日、ConocoPhillips との間で、Rio Grande LNG 第 5 系列からの引き取りに関して 20 年間の LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。ConocoPhillips は、年間 100 万トンの LNG を 20 年間・FOB (本船渡し) 条件、ヘンリーハブ連動価格で購入することとなる。NextDecade が第 5 系列に関して FID (最終投資決定) を行うことが条件となる。同社は、「第 5 系列に関してコマーシャライゼーションが完了した」と述べた。

NextDecade 社は、2025 年 9 月 9 日、Rio Grande LNG 第 4 系列の FID (最終投資決定) を行い、同系列・関連インフラストラクチャー全資金を担保する資金調達取引を完了し、Bechtel Energy 社に全面推進通知を発行したことを発表した。

第 5 系列に関して 2025 年第 4 四半期の FID に向け引き続き前進している。第 4 系列の LNG 生産容量は年間 600 万トンで、Rio Grande LNG 建設中総容量は年間 2400 万トンに増加する。第 4 系列はコマーシャル面で ADNOC, TotalEnergies, Aramco との合計年間 460 万トン分の 20 年間 LNG SPAs (売買契約) に支えられる。

保証済み実質完成期日、第 4 系列 LNG SPAs 下のコマーシャル引き渡し開始期日 (DFCD) は 2030 年下半年となる見込み。同系列・関連インフラストラクチャープロジェクトコストは、EPC コスト、オーナーコスト、予備費、資金調達手数料、建設期間中の利息その他含めて 67 億米ドルと見込まれる。

同系列・関連インフラストラクチャー向け資金を全部確保するため、NextDecade は資金調達 67 億米ドルを確保した。Rio Grande LNG Train 4 社の期間融資借入 38.5 億米ドル、NextDecade からの出資分 11.3 億米ドル、BlackRock 傘下 Global Infrastructure Partners・GIC・Mubadala Investment 社 (これらはフィナンシャルインベスター)、TotalEnergies 出資分 17.0 億米ドルである。NextDecade は当初第 4 系列の経済的持分として 40%を持ち、これはフィナンシャルインベスターがその第 4 系列投資で一定の収益を実現後に 60%に増加する。NextDecade は自社出資分の一部を資金調達するため定期融資 13.3 億米ドルを借り入れている。

第 5 系列のコマーシャライゼーションは完了しており、JERA、EQT 社、ConocoPhillips との合計年間 450 万トン分の 20 年間 LNG SPAs によりコマーシャル面で支えられている。2025 年 6 月、NextDecade は Bechtel と第 5 系列・関連インフラストラクチャーについて一括請負引き渡し方式の EPC 契約を締結した。2025 年 9 月、NextDecade は同系列の FID 実現への現時点での日程に沿って、同 EPC 契約の価格有効期限を 2025 年 11 月 15 日まで設定した。

NextDecade は第 5 系列建設資金を 60%債務、40%出資の配分と計画している。フィナンシャルインベスターは第 5 系列出資分への投資オプション権を持ち、行使された場合には、必要出資分の 50%に相当する。このオプション分を勘案し、NextDecade は現時点で出資分の残り 50%を負担する見込みで、初期は同系列経済

的持分の 50%を保有し、フィナンシャルインベスターがその第 5 系列投資で一定の収益を実現後に 70%に増加する。

NextDecade は適切な資金調達の確保を条件に、第 5 系列・関連インフラストラクチャーの FID を 2025 年第 4 四半期に実現することを期待している。このタイミングに基づき、第 5 系列保証済み実質完成期限、同系列 SPAs 下での DFCD を 2031 年上半期と見込んでいる。

TotalEnergies は、2025 年 9 月 10 日、NextDecade との間で、テキサス州 Rio Grande LNG 第 4 系列を開発する合弁事業体の 10%株式を取得する諸契約を締結したことを発表した。10%直接所有に加え、TotalEnergies は NextDecade の 17.1%株主として第 4 系列の 7%弱を間接所有することとなる。TotalEnergies、NextDecade (40%)、Global Infrastructure Partners (GIP 36.9%)、GIC (7.9%)、Mubadala (5.2%) は第 4 系列 FID (最終投資決定) を実行した。この発表によると同系列 LNG により TotalEnergies 米産 LNG 輸出容量は 2030 年までに年間 1600 万トンを超えることとなる。TotalEnergies はこれまでに NextDecade との間で同系列から 20 年間・年間 150 万トンの LNG を引き取る SPA (売買契約) を締結した。TotalEnergies は Rio Grande LNG フェーズ 1 に 16.7%を所有し、年間 540 万トンを引き取ることとなっている。

Baker Hughes は、2025 年 9 月 11 日、エンジニアリング企業 Bechtel Energy 社より、NextDecade 社のテキサス州 Rio Grande LNG 設備第 4 系列主液化機器納入を受注したことを発表した。この受注は、第 4 系列から第 8 系列まで Baker Hughes ガスタービン・冷却コンプレッサー技術委託契約枠組合意に立脚する。最初の 3 系列向けの技術ソリューションを複製する第 4 系列受注には、Frame 7 ガスタービン 2 基、遠心圧縮機 6 基を含む。

ADNOC 傘下 XRG は、2025 年 9 月 25 日、Rio Grande LNG プロジェクト第 1 段階の 11.7%持分取得完了を祝賀した。

TotalEnergies は、2025 年 9 月 29 日、Continental Resources との間で、オクラホマ州 Anadarko 地域の天然ガス生産資産の持分 49%を買い取る契約を締結したことを発表した。これらの資産は、2030 年までに総生産量日量 3.50 億立方フィートに達し長期間その水準を維持するポテンシャルを有する。これにより TotalEnergies は自社分として日量 1.50 億立方フィート (年間 115 万トン) を確保できる。今回の非操業分シェールガス資産買い取りは、2024 年 Eagle Ford 地域で完了した Dorado、Constellation 買い取りの補完となる。TotalEnergies は Barnett 地域で日量 5 億立方フィート (年間 380 万トン) の生産を操業している。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 9 月 10 日、Woodside Energy Trading Singapore 社とマレーシア PETRONAS 子会社 PETRONAS LNG 社 (PLL) が、2028 年から 15 年間のマレーシア向け年間 100 万トンの LNG 供給について SPA (売買契約) を締結したことを発表した。LNG は Woodside のグローバルポートフォリオから供給され、米 Louisiana LNG

プロジェクトからの数量を含む可能性がある。

Woodside Energy 社は、2025 年 9 月 15 日、Louisiana LNG プロジェクト起工式典を開催した。LNG 設備 3 系列中最初の 1 本に関する作業は 22%以上完成している。同プロジェクトは、3 系列年間 1650 万トンの基本開発から 2029 年 LNG 生産開始を目標としている。追加 2 系列分拡張に関しても許可は完了しており、累計総容量は年間 2760 万トンとなる。

豪 Woodside 社は、2025 年 9 月 25 日、トルコ BOTAS、Woodside は LNG HOA (基本合意) を締結したことを発表した。Woodside は 2030 年から 9 年間で合計 5.8 bcm (426 万トン) を、主として Louisiana LNG プロジェクトから供給するとしている。

Glenfarne Energy Transition 社は、2025 年 9 月 10 日、Texas LNG Brownsville 社が Gunvor Singapore 社と、Texas LNG からの LNG 年間 50 万トンについて FOB (本船渡し) 条件で 20 年間の SPA (売買契約) を締結したことを発表した。両社間の非拘束 HoA (基本合意) を転換するもの。今回の発表によると Texas LNG は Macquarie および別の LNG 企業との HOAs も確定契約化するべく進めているとのこと。

Commonwealth LNG、EQT 社は、2025 年 9 月 8 日、前者のルイジアナ州キャメロン郡湾岸で開発中の年間 950 万トン輸出設備より、年間 100 万トン・20 年間の SPA (売買契約) を発表した。EQT は LNG を FOB (本船渡し) 条件・ヘンリーハブ連動価格で購入する。Commonwealth は 2025 年 FID (最終投資決定)、2029 年 LNG 生産へと前進している。EQT との契約を含め、Commonwealth は長期・拘束力ある契約下 (Glencore, JERA, PETRONAS) で年間 500 万トンの引き取り予約を確保している。EQT は 9 月 3 日に NextDecade との Rio Grande LNG 第 5 系列から年間 150 万トン・20 年間の取引、8 月 27 日に Sempra Infrastructure との Port Arthur LNG フェーズ 2 から年間 200 万トン・20 年間の契約を発表した。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 9 月 18 日付で Commonwealth LNG 社に対して、Commonwealth LNG 設備の初期準備作業を開始する申請の許可を伝える指令書簡を発表した。

Argent LNG 社は、2025 年 9 月 3 日、ルイジアナ州ポートフォションの年間 2500 万トン LNG 輸出プロジェクト開発の FERC (連邦エネルギー規制委員会) プレファイリング (事前審査) 手続き開始申請を提出したことを発表した。同設備は Baker Hughes、Honeywell UOP、ABB、GTT などのテクニカルプロバイダーとのパートナーシップにより、モジュラー建設方式を採用して開発されることとなる。Argent LNG は 9 月 2 日、米沿岸警備隊 (USCG) に、意思表明書 (LOI)、初期水路サステナビリティアセスメント (PWSA) を提出したことを発表した。

Argent LNG は、2025 年 9 月 29 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) が Argent LNG のルイジアナ州ポートフォションの年間 2500 万トン LNG 輸出プロジェクトをプレファイリング (事前審査手続き) に受け容れたことを発表した。Argent LNG によると、

2030 年までにグローバル市場への LNG 供給が可能となる。

Monkey Island LNG 社は、2025 年 9 月 4 日、ルイジアナ州キャメロン郡で自社が計画中の年間 2600 万トン液化・輸出設備に ConocoPhillips 社の Optimized Cascade® プロセス液化技術を選定したことを発表した。Monkey Island LNG の使命は透明性高いコスト効率的なモデルである TrueCost LNG™ を実現することとしている。

McDermott 社は、2025 年 9 月 8 日、Monkey Island LNG が McDermott に対して、ルイジアナ州キャメロン郡で計画している天然ガス液化設備の基本エンジニアリング・計画業務のマスターサービス（包括業務委託）契約（MSA）を発注したことを発表した。Monkey Island LNG 設備フェーズ 1 は、各年間 520 万トン LNG 系列 3 本を含む。拡張計画 2 系列を含めると総容量は年間 2600 万トンとなる。今回の発表は、Monkey Island LNG が ConocoPhillips Optimized Cascade® プロセスを採用したことを受けてのものとなる。今回の発表によると McDermott のコンパクト、モジュラー LNG 液化設備系列設計により、在来型 LNG プロジェクトと比較して面積当たりの LNG 量を最大 60% 増加する。McDermott がエンジニアリング・実施計画・設備の EPC（エンジニアリング・調達・建設）段階の予算を担当する。エンジニアリング・許可手続きは 2026 年開始見込み、LNG 生産開始は 2030 年代初を見込む。

Monkey Island LNG は、2025 年 9 月 11 日、ある国際石油会社（IOC）と、年間 520 万トンの LNG 引き取りに関する MOU（覚書）締結を発表した。MILNG は年間 2600 万トンの LNG 輸出設備を 2 段階開発中で、第 1 段階は 3 系列で年間 1560 万トンを目指している。今回の引き取り合意は、第 1 段階第 1 系列をカバーする。今回の発表によると、今回の MOU は、ガス供給者から LNG 買主までの誘因を足並み揃える透明、コスト効率的な枠組みを特色とする MILNG の TrueCost LNG™ モデルに対するコマーシャル上の引き合いが大きくなっていることを示している、としている。

Enbridge 社は、2025 年 9 月 2 日、2 件のガス輸送プロジェクトに FID（最終投資決定）到達を発表した。Enbridge は Algonquin Gas 輸送ラインから既存の米北東部地域ガス配給事業会社向けの輸送量を増強する AGT Enhancement プロジェクトに関するコマーシャル上の諸契約を締結した。Matterhorn 合併事業体を通じて、Permian 地域から Katy 地域へ、米ガルフ LNG 市場に供給するため、2028 年の完成を見込む日量 2.5 bcf の Eiger Express Pipeline (Eiger) について FID に達した。

Glenfarne 社は、2025 年 9 月 10 日、Glenfarne Alaska LNG 社が多数持分を所有する Alaska LNG、株式会社 JERA が Alaska LNG プロジェクトから 20 年間・FOB（本船渡し）条件で年間 100 万トンの LNG 販売について、LOI（関心表明）を締結したことを発表した。Glenfarne によると、台湾 CPC、タイ PTT との合意を含め、Alaska LNG の第三者向け LNG 引き取り容量の半分以上に関して、初期的なコマーシャル上の合意を確保している。Glenfarne は Alaska LNG 推進に段階的なアプローチを採っている。フェーズワン建設は国内パイプラインに焦点を置いている。フェーズトウーは LNG 輸出設備・関連インフラ

トラクチャーを含む。Glenfarne は Alaska LNG パイプラインについて 2025 年末 FID (最終投資決定)、LNG 輸出部分は 2026 年 FID を目標としている。JERA は 11 日、本件 LOI を発表した。

Glenfarne 社は、2025 年 9 月 11 日、Glenfarne Alaska LNG 社・POSCO International 社が Alaska LNG プロジェクトの開発に関わる戦略的パートナーシップを深化する合意を締結したことを発表した。このパートナーシップには、同プロジェクトについて鉄鋼供給、LNG 引き取り、投資を含むこととなる。この合意は、Alaska LNG 天然ガスパイプラインに必要となる鉄鋼の大きな部分を POSCO が供給する初期諸条件を含むこととなる。Alaska LNG パイプラインは、アラスカ州南中部および Alaska LNG 輸出設備を North Slope の天然ガス資源と結び付けることとなる。合意には FOB (本船渡し) 条件・年間 100 万トンの LNG 引き取りの HOA (HOA) 初期諸条件を含むこととなる。これは Alaska LNG にとって最初の公表される HOA となる。今回の発表によると、Glenfarne は Alaska LNG パイプラインの国内部分について最終的なエンジニアリングの完成に向けて Worley と作業を進めており、2025 年末のパイプライン FID (最終投資決定) を目標としている。

カナダ政府は、2025 年 8 月 29 日、メジャー・プロジェクト・オフィス (MPO) 設置を発表した。国家建築のプロジェクトの迅速建築のための単一のコンタクト点となることを使命とする。主として 2 つの方法でこれを行う。第 1 に規制承認プロセスを合理化・加速化する。第 2 に必要に応じてこれらプロジェクトのファイナンスを組成・調整支援する。州・テリトリー当局と協力して、環境評価の「ワンプロジェクト・ワンレビュー」方式を実現する。MPO は民間、州・テリトリー、Canada Infrastructure Bank、Canada Growth Fund、Indigenous Loan Guarantee Program 等政府部門の取り組み間のファイナンス組成・調整を支援する。政府は今後数週間中に国家構築プロジェクトの第 1 陣を発表する。

MidOcean Energy、PETRONAS は、2025 年 9 月 30 日、MidOcean が PETRONAS のカナダにおける主要事業の 20% 持分を取得する複数の契約を締結したことを発表した。PETRONAS のカナダにおける上流部門投資を保有する North Montney Upstream Joint Venture (NMJV) における 20% 持分、PETRONAS の LNG Canada プロジェクトにおける 25% 参加持分を保有する North Montney LNG Limited Partnership (NMLLP) における 20% 持分が含まれる。PETRONAS とのこのパートナーシップを通じて、MidOcean はこれに伴う年間 70 万トンの LNG を確保でき、LNG Canada 第 2 段階開発の成長ポテンシャルも得られることとなる。

カナダ Woodfibre LNG 社は、2025 年 9 月 2 日、スクワミッシュのプロジェクト建設現場に 4 件の新モジュールが到着し、完成への半ばに至った、と述べた。今後数ヶ月間、2026 年までさらにモジュールの到着が計画されている。

カナダ Cedar LNG による 2025 年 9 月 26 日の発表によると、Cedar LNG は操業時に FLNG 向けに Minette Bay 変電設備より再生可能電力を供給するための送電線建設準備を進めている。エンジニアリング設計の進化により、許可液化容量を日量 4 億標準立方フィ

ートから、5 億立方フィート（年間 380 万トン）に拡張できることを確認した。

カナダ Ksi Lisims LNG は、自身による 2025 年 9 月 16 日の発表、およびブリティッシュコロンビア州、連邦政府当局の発表によると、同州より環境アセスメント証書、連邦政府より肯定的な判断を受けた。建設は早ければ 2025 年内に開始されるとしている。Ksi Lisims LNG は、カナダ北西岸で、Nisga'a ネイション、Western LNG、Rockies LNG により開発されており、再生可能水力発電により動力を供給され、地元影響を最小化するため遠隔地に浮体プラットフォーム上に建設され、ネットゼロの LNG 輸出設備となるとしている。

カナダのニューファンドランド・ラブラドル州 Fermeuse Energy 社は、2025 年 9 月 2 日、Fermeuse Marine 供給基地に、液化ハブ開発につながる計画を発表した。同プロジェクトは Jeanne d'Arc 地域の沖合随伴ガス埋蔵量を開発することを目指す。

ECA Liquefaction 社は、2025 年 9 月 19 日、DOE/FECM (米エネルギー省化石燃料・カーボンマネジメント局) に、非 FTA 輸出業務開始期限を、2026 年 1 月 25 日から 9 月 21 日に修正することを申請した。

Honeywell 社は、2025 年 9 月 2 日、自社モジュラー LNG 前処理技術・統合型コントロール安全システム (ICSS) がメキシコのソノラ州グアイマスの AMIGO LNG 社輸出設備で採用されることとなる、と発表した。AMIGO LNG 輸出設備は 2028 年稼働開始見込み、最大年間 780 万トンの輸出で設計されている。

New Fortress Energy 社は、2025 年 9 月 5 日、米連邦証券取引委員会 (SEC) 提出書類にて、債務支払いが迫っていることにより「企業活動存続可能性に疑念が生じている」と述べた。NFE は、資産売却、資金調達、債務条件変更・借り換え取引、および追加の流動性を提供し債務契約に基づく償還義務からの救済を求めるその他の戦略的取引を含む、利用可能な全てのオプションを検討している」と述べた。

New Fortress Energy 社 (NFE) は、2025 年 9 月 16 日、プエルトリコ調達当局 (3PPO)、プエルトリコ官民パートナーシップ当局 (P3A) との間で、プエルトリコ向け LNG 長期供給に関する契約諸条件で合意に達したことを発表した。当該契約案は現在プエルトリコ財務監督委員会 (FOMB) により承認審査中である。今回の発表によると、今回のガス供給契約 (GSA) はプエルトリコの発電システム向けに 7 年間天然ガスを供給する。年間最大 75 TBtu (145 万トン) が供給され、最小限の年間テイクオアペイ数量は 40 TBtu、一定条件の充足により 50 TBtu に増加するとしている。価格条件は、San Juan 5 & 6 (従来年間 20 TBtu を消費している) 向けを除き、115% Henry Hub プラス USD 7.95/ 100 万 Btu とされる。San Juan 5 & 6 は 115% Henry Hub プラス USD 6.50 とされる。今回の数量は、NFE のメキシコ アルタミラ沖年間 140 万トン Fast LNG 設備からとなる見込み。Fast LNG 設備は 2024 年第 4 四半期に COD (稼働開始準備完了) を実現し、現在常時公称容量を上回って LNG を生産しているとのこと。

[欧州・周辺地域]

テキサス大学オースティンの研究者達が、2025 年 9 月 9 日、EU メタン規制に対応できるメタン認証・報告のプロトコル案についてのグローバル関係者のコンサルテーションプロセスを開始した。

英南西ウェールズの Dragon LNG 社による 2025 年 9 月 4 日資料によると、2029 年 8 月 26 日から利用可能となる気化容量年間 9 Bcm の競売に関わる市場コンサルテーションを開始した。Dragon LNG は、2024 年に実施した「関心表明」手続きからのフィードバックも勘案している。次をオファーするとしている。容量を最小で年間 1.11 bcm から部分的に利用できる「バンドル」方式、より大きな容量需要を持つ企業には Dragon LNG 容量の 100%を確保する機会、最低 10 年間から容量の大小如何なる組み合わせでも応札できるフレキシビリティである。市場コンサルテーション期間は 9 月 4 日から 10 月 10 日である。その後 2025 年末、容量オークション手続きが見込まれている。

2025 年 9 月 15 日の発表によると、スペインのマドリッド本社の投資管理会社 Asterion Industrial Partners が、フランス Dunkerque LNG 基地マイノリティー持分の買い取りを完了した。

ドイツ Deutsche Energy Terminal (DET) 社は、2025 年 9 月 19 日、Brunsbüttel 基地の 2026 年 1 月 2 日から 5 月 26 日期間の短期気化容量に関して、2025 年 10 月 23 日に競売を実施することを明らかにした。

ドイツ Deutsche ReGas 社は、2025 年 9 月 3 日、BASF、Equinor と個別に、Mukran における "Deutsche Ostsee" Energie-Terminal 基地 LNG 気化容量利用に関する長期のコミットメントに合意したことを発表した。

Hapag-Lloyd 社は、2025 年 9 月 11 日、Shell Western LNG 社と、液化バイオメタン供給を即日開始する複数年契約を締結したことを発表した。Hapag-Lloyd 向けに供給される液化バイオメタンは ISCC EU 認証済とのこと。

ドイツ Stahl-Holding-Saar (SHS) 社は、2025 年 9 月 5 日、子会社 Dillinger (Aktien-Gesellschaft der Dillinger Hüttenwerke)、Saarstahl (Saarstahl Aktiengesellschaft)、ROGESA (ROGESA Roheisen- und Rohstoffgesellschaft Saar mbH) とともに、フランス Verso Energy との間で、年間 6,000 トン以上のグリーン水素供給・購入に関する長期契約を締結したことを発表した。ROGESA は 2024 年 3 月、地域内で生産されたグリーン水素調達に関わる非公開の入札手続きを開始した。Verso Energy ・ ROGESA は 2029 年から 10 年間、年間 6,000 トン以上の供給に合意した。Verso Energy は、非バイオリジカル起源の再生可能燃料 (RFNBO) として認証を受けた水素をザールラントの製鉄産業に供給する。Verso Energy はフランス Carling の Carling Hydrogen Next Generation (CarlHYng) プロジェクトでこの水素を製造する。

ノルウェー Equinor 社は、2025 年 9 月 23 日、バレンツ海 Askeladd Vest 海底ガス田の生産が同 19 日に開始されたことを発表した。同発表によると、同ガス田は Melkøya の

処理設備からの LNG 生産の継続に貢献する。

ノルウェー Seasystems 社は、2025 年 9 月 5 日、Stena Bulk との間で、浮体 LNG インフラストラクチャーのソリューション促進のため協力契約を締結したことを発表した。このパートナーシップは、Seasystems のグローバルのエネルギー産業への繫留・液体移送システム提供の経験と、Stena の特許である Extended FSU/FSRU Mooring (EFM) システム・Jettyless Floating Terminal (JFT) 技術を結び付ける。この契約により、Seasystems は Stena 特許の jettyless LNG 技術の独占販売・供給権を得る。jettyless ソリューションは、インフラストラクチャーが限定される、あるいは存在しない地域で威力を発揮する。

Wison New Energies (恵生清洁能源) は、2025 年 9 月 11 日、H2Carrier AS と、グリーンアンモニア生産のコスト削減を目指す新たな取り組みを発表した。ノルウェー北部でのグリーンアンモニア生産のための 500 MW グリーンアンモニア FPSO (浮体生産・貯蔵・積み出し設備) 完成を目指す。

Wärtsilä 社は、2025 年 9 月 29 日、Wärtsilä Gas Solutions がスウェーデン Eskilstuna の新規バイオガス設備向けのバイオ LNG ソリューションを供給する契約に選定されたことを発表した。当該契約は Andion Scandinavia 社が締結した。Andion は当該プロジェクトの所有者 Eskilstuna Biogas 社との設計・建設契約における主供給者となり、バイオガスの高品質化・液化ソリューション設備を設置することとなる。当該設備は、有機廃棄物よりバイオ LNG 最大日量 17 トンの生産ができることとなる。

デンマーク Celsius Tankers、香港 Caravel Group は、2025 年 9 月 2 日の報道によると、LNG バンカー船に焦点を置く合弁事業を設立した。既に 2 隻の 20,000 m³ 船舶を China Merchants Industry Holdings (招商局工业集团有限公司)・China Merchants Heavy Industry Jiangsu (招商局重工(江苏)有限公司)に発注済みで、引き渡しは 2027 年第 4 四半期に予定されている。

イタリア Edison 社は、2025 年 9 月 10 日、Shell International Trading Middle East 社と LNG 売買に関する契約を締結したことを発表した。Edison は米国から年間 70 万トンの LNG を受け入れることとなり、2028 年から最大 15 年間となる。Edison は FOB (本船渡し) 条件で購入することとなる。

株式会社 JERA は、2025 年 9 月 11 日、モンテネグロ国政府との間で、同国における LNG 基地およびガス火力発電所の開発検討に関して協業することを定めた覚書を締結したことを発表した。JERA が開発・調達・建設・運営・保守・資金調達等に関する包括的な実現可能性に関する調査を実施し、開発検討に向けた支援を行うとしている。

トルコ BOTAS 社は、2025 年 9 月 12 日、同 9 - 10 日に複数の国際エネルギー企業と LNG、戦略協力協定(契約)を締結したことを発表した。BOTAS、Oman LNG、PetroChina International は協力協定を締結した。BOTAS は、中期、短期の LNG 契約を、bp、Shell、Eni、CHENIERE、Equinor、Hartree、JERA、SEFE と締結した。これら中期、短期の契約により、トルコに 2025 年から 2028 年に 15 bcm の天然ガス引き渡しが想定される。

Mercuria 社は、2025 年 9 月 23 日、トルコ BOTAŞ、Mercuria 間で LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。BOTAŞ は年間 4 bcm (294 万トン) を冬季間中心に受け入れる。米国積み込み港湾 (FOB)、トルコ、欧州、北アフリカの気化基地 (DES) での引き渡しがある。引き渡しは 2026 年開始、2045 年末までの予定としている。

ロシア Gazprom は、2025 年 9 月 1 日、同年上半期自社の売上高はルーブル高と原油価格下落のため前年同期比 2%減となったが、ガス販売の売上高は 8%増加した、と述べた。

欧州委員会は、2025 年 9 月 19 日、ロシア産 LNG 輸入の 2027 年 1 月までに全面禁止を含む対ロシア第 19 次制裁パッケージ案を提示した。

ロシア Gazprom は、2025 年 9 月 2 日、Gazprom ・CNPC (中国石油天然气集团有限公司) 間で、関係深化を内容とする戦略的協力協定を含む 4 文書が締結された、と述べた。

「中国向けの Power of Siberia 2 ("Сила Сибири 2") ガスパイプライン・モンゴル経由 Soyuz-Vostok ("Союз - Восток") 輸送パイプライン建設に関する法的拘束力を持つ覚書導管を指している模様である。Gazprom は、「東廻り」経路での中国向けガス供給累計量が 2025 年 5 月に 100 bcm (1000 億 m³) を超えた、と述べた。2025 年の供給量は 2024 年を 28.3%上回るとのこと。2022 年 2 月、Gazprom ・CNPC は «дальневосточному» (極東) 経路での年間 10 bcm 天然ガス供給の長期 SPA (売買契約) を締結した。引き渡しは 2027 年 1 月開始予定。今回両社間で、Power of Siberia パイプライン経由年間 38 から 44 bcm への増量、極東経路プロジェクト供給を 10 から 12 bcm に増量することに関して、商業上の契約が締結された、とのこと。

[南米]

パナマ運河当局は、2025 年 9 月 29 日、長期のスロット配分プログラムの次世代版として LoTSA 2.0 導入を発表した。12 ヶ月単位を、6 ヶ月単位 2 回に移行する。平均の 1 日当たりのスロットを 4 から 3 に調整してモデルを変更する。部門枠組を FixContainer, FlexContainer, FixGas, FlexGas, FlexGas+, FlexSlot+ としており、顧客は保証された確実性が必要か、高度の柔軟性を求めるか、自らの船団の動きや事業上の目標に適合するプランを選択できる。1 月 4 日から 7 月 4 日までの航行に関して、申し込みは 10 月 28 日に開始される。また 1A 期間と呼ぶ 15-30 日前に予約される 3 枠中 1 枠について LNG 輸送船舶に優先順位を与える 2023 年の規則を復活するとしている。

Sawgrass LNG & Power 社は、2025 年 9 月 2 日、バルバドス Barbados National Energy 社 (BNECL) により LNG 供給者に再度選定されたことを発表した。発表によると Sawgrass LNG & Power は米国南東部、カリビアンでの LNG 供給およびガストゥーパワーソリューションの有力事業企業である。同社は生産容量日量 100,000 ガロン (160 トン) ・現場での貯蔵容量 270,000 ガロンの LNG 設備を操業している。

EXMAR 社は、2025 年 9 月 18 日、コロンビア西岸への FSU (浮体貯蔵設備) 配備に関して Regasificadora Del Pacífico S.A.S. (RDP) 社と関連諸契約を締結したことを発表した。

RDP は、Ecopetrol S.A. との間で 2025 年 2 月に締結した気化・ロジスティックス業務提供のターム契約に基づき、Buenaventura 湾 (ブエナビントウーラ) での LNG 輸入ソリューションを開発している。このソリューションは、浮体 LNG 貯蔵・積卸設備を配置、そこで LNG が LNG 輸送船舶から積卸、アイソテナー (ISO タンク) に積み込まれバージにて Buenaventura D.E. 港に輸送される方式である。アイソテナーはトラックに積載され、Buga の気化設備へと輸送され、気化して国家輸送網へと注入されることとなる。Buenaventura LNG プロジェクトとこれを支える EXMAR との諸契約は、FID (最終投資決定) とその他前提諸条件の充足が条件となる。これらは 2025 年第 4 四半期までに解消する見込み。

【グローバル】

スイス WinGD 社は、2025 年 9 月 2 日、Hanwha Engine とともに、世界初の変動圧縮率技術を織り込んだ X72DF-2.2 VCR エンジンを製造したことを発表した。この新世代型低排出エンジン技術は、WinGD が LNG・ディーゼル燃料を用いる船舶向けに開発したもので、燃料効率を最大化してメタンスリップを削減することを目論む。別件となるが WinGD はエンジン設計者として初めて Methane Abatement in Maritime Innovation Initiative (MAMII) にも参加している。

お問い合わせ: report@tky.iej.or.jp